

優秀賞

私が誇る地域の祭り

福岡県 春日市立春日野小学校四年 白水 真尋

「バッシュャン。」

池になだれこむ男たち。

「せえの、よいしょ。せえの、…。」

「しっかり踏め、そんなんじや樽割れんぞ。」

男の人が大声で叫んでいる。その時、「どうしてこんなに寒い中、ふんどし一丁で池に入って樽を割るの?」「何なの、この祭りは?」と頭に?がうかんだ。

私の住む「春日市春日」という地域には、「春日の婿押し」という行事があります。婿押しは、国の「重要無形民俗文化財」に指定され、四〇〇年以上続く伝統的な行事であることを先生に聞きました。初めて知る事ばかりで、もっともっとくわしく知りたいと思いました。

家に帰り、父の顔を見ると、父は去年、三期組合の組合長だったことを思い出しました。三期組合は婿押しを運営している団体です。いつもとちが

って真剣な顔で話をしてくれました。その話の中で、婿押しは村にやってきたお婿さんを「お祝い」する結婚式の意味があること、一方、寒い中に御池に入り、樽を割る「樽せり」には、「人生そんなに甘くないぞ」という意味があることも分かりました。資料集の「わたしたちの春日」には、そんなことは書かれていません。

大人だけの祭りではないことも分かりました。子どもだけの樽とりでは、子どもたちが活やくします。大人と子どもが公民館の大きな広間で向かい合い、子どもたちは樽をめがけて走り、大人にぶつかっていきます。元気いっぱいの子どもの勢いに大人たちも負けていられません。そう大人たちには負けられない理由があるのです。樽を取られてしまうと、婿押しのメインイベントである「樽せり」ができなくなるからだそうです。

「樽せり」では、男の人が樽の木片をうばい合い

ます。それは「五穀豊穰」と「開運を招く」という言い伝えがあるからということも分かりました。父はこんなことも言いました。

「樽せりで木片をうばい合っているでしょ。でもあれはね、実は、たくさん取れた人たちは他の人たちにも分けているんだよ。」

と。
さらに、私は男の人だけが活やくする祭りだと思

っていました。父はこう続けました。
「女性の支えがあってこそその祭りなんだよ。地域の方たちの協力のおかげで婿押しができていますんだよ。」

話を聞いているうちに、私はどんどん勇気がわいてきました。今日まで続いてきた祭りは、たくさんの方の思いが集まり、協力してきたことの証だと分かりました。私の中にあつた祭りに対するイメージは、とても誇らしい祭りへと大きく変化したのです。「これからも続けていきたい。」

「ドン、ドン、ドン、…。」

太鼓の音が聞こえてきた。神社に人が集まり、いよいよ「春日の婿押し」が始まる。

